

# 令和2年東京中央卸売市場青果物市況見通し

品目	本年入荷見込み		本年予想価格		令和元年出回り主力産地			摘 要
	前年入荷比 (前年入荷)	平年入荷比 平年入荷	本年見通し価格 (前年価格)	平年価格比 平年価格				
だいこん	98%	92%	100円	93%	北海道	青森	岩手	北海道・青森産を中心とした出回りとなろう。北海道産は6月上旬の少雨、乾燥や6月中旬以降の長雨、曇天、低温により、一部地域では生育が遅延している。出荷量は平年を下回る見込み。青森産も6月下旬以降の悪天候により根部肥大と掘り取り作業が遅延している。今後の天候回復で肥大の遅延等が解消されれば出荷量は前年、平年並みの見込み。総入荷量は前年比98%、価格100円/kgとなり、全体量と価格は概ね前年並みの見込み。
	(8,236トン)	8,743トン	(95円)	107円	63%	31%	4%	
にんじん	99%	103%	200円	167%	北海道	青森	中国	北海道産を中心とした出回りとなろう。北海道産の生育は概ね順調であり、8月上旬は道内産地が出揃い増量するも、全国的な不足感には直ちには解消されず高値保ち合いの見込み。中旬には十分な出回りとなる中で、高値による販売苦戦の気配がある。総入荷量は前年比99%、価格200円/kgと不足感が強く、平年よりも6割以上の高値での販売となろう。
	(7,215トン)	6,927トン	(89円)	120円	92%	5%	2%	
キャベツ	102%	103%	95円	104%	群馬	岩手	長野	群馬産を中心に岩手、長野産を加えた出回りとなろう。群馬産は作付け面積は前年並み。4月下旬以降の少雨・乾燥等による一部の生育遅れは概ね回復し、定植・生育も順調に進んでいる。出荷量は前年、平年並みの見込み。岩手産は作付け面積は前年並みとなっており生育は概ね順調であるが、今後、低温と日照不足が続く場合は出荷量の減少が懸念される。総入荷量は前年比102%、価格95円/kgと、前年よりやや安く平年よりやや高での販売を見込む。
	(16,633トン)	16,491トン	(100円)	91円	75%	15%	6%	
ほうれんそう	96%	81%	900円	112%	群馬	栃木	茨城	群馬・栃木産を中心とした出回りとなろう。群馬産は作付け面積は前年並みだが、日照不足により生育は徒長気味である。7月上旬以降の降雨による病害発生で、圃場ロスの増加が懸念される。栃木産は6月からの長雨により軟弱徒長で株重が少ない。総入荷量は前年比96%、価格900円/kgと総体量は前年・平年よりも少なく、価格は前年並みで堅調に推移する見込み。
	(576トン)	683トン	(903円)	806円	33%	30%	14%	
ねぎ	101%	104%	320円	98%	茨城	青森	秋田	茨城産を中心に北海道・青森・秋田・山形産を加えた出回りとなろう。茨城産は6月下旬からの曇天、日照不足で生育遅延や病害の発生が見られるが、今後天候が回復すれば上位等級中心の出荷が見込まれている。青森産は作付け面積は前年並み、生育も平年並みとなっている。病害虫の発生も前年より少ない。総入荷量は前年比101%、価格320円/kgとなり、前年より高く、平年よりも安い見込み。
	(4,160トン)	4,050トン	(276円)	325円	37%	15%	14%	
きゅうり	101%	103%	350円	122%	福島	岩手	秋田	福島産を主力とした東北産中心の出回りとなろう。福島産の生育は順調で側枝の発生も良好であるが、6月下旬の低温により黒星病が平年よりやや多く発生しているほか、アブラムシ類・アザミウマ類の発生が早くから見られている。岩手産は6月下旬以降の長雨の影響で8月の出荷遅延が見込まれており、天候の回復が遅れれば、樹勢低下からの落花による出荷量減少が懸念される。総入荷量は前年比101%、価格350円/kgとなり、価格は巣ごもり需要により、7月の高値を継続して平年よりも2割以上高い見込み。
	(8,375トン)	8,174トン	(277円)	288円	41%	24%	11%	
なす	105%	101%	315円	109%	群馬	栃木	茨城	群馬・栃木産を主力とした関東産中心の出回りとなろう。群馬産は生育は順調であるが、一部地域ではハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類が散見されている。梅雨明けと共に各産地増量となり、全体量は前年を上回り平年並みの見込みである。総入荷量は前年比105%、価格は増量に伴い落ち着く見込みであるが、315円/kgとなり平年より高い見込み。
	(3,985トン)	4,137トン	(315円)	288円	38%	32%	15%	
なし	90%	83%	418円	118%	茨城	千葉	栃木	茨城・千葉・栃木産を中心に、上旬は出荷終盤の九州産を加えた出回りとなろう。九州産・関東産は開花期の低温により着果数が少なく、小玉傾向となっていたが、現在玉肥大は回復傾向にある。九州産は7月末から8月上旬にかけて出荷ピークとなる見込みであり、また多くの関東産地も3日から8日ごろに出荷ピークを迎える予定となっている。そのため、九州産地と関東産地で出荷が重なる可能性がある。総入荷量は着果不良により前年比90%、価格418円/kgの見込みとなっており、梅雨が明けて好天が続けば需要が喚起され、価格は堅調に推移する見込み。
	(7,506トン)	8,147トン	(380円)	354円	28%	27%	21%	